

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2013年11月5日

【四半期会計期間】 第133期第2四半期(自 2013年7月1日 至 2013年9月30日)

【会社名】 株式会社クラレ

【英訳名】 KURARAY CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 伊藤文大

【本店の所在の場所】 岡山県倉敷市酒津1621番地

【電話番号】 086(422)0580
(上記は登記上の本店所在地であり、実際の本社業務は下記において
行っています。)
東京都千代田区大手町1丁目1番3号
03(6701)1209

【事務連絡者氏名】 経理・財務本部 経理部長 松本和也

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区大手町1丁目1番3号

【電話番号】 03(6701)1071

【事務連絡者氏名】 経営企画本部 IR・広報部長 島本智之

【縦覧に供する場所】 当社東京本社
(東京都千代田区大手町1丁目1番3号)
当社大阪本社
(大阪市北区角田町8番1号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

(注) 当社東京本社および当社大阪本社は法定の縦覧場所ではありませんが、投資家の便宜のため縦覧に供して
います。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第132期 第2四半期 連結累計期間	第133期 第2四半期 連結累計期間	第132期
会計期間		自 2012年4月1日 至 2012年9月30日	自 2013年4月1日 至 2013年9月30日	自 2012年4月1日 至 2013年3月31日
売上高	(百万円)	180,888	199,269	369,431
経常利益	(百万円)	21,884	24,895	48,590
四半期(当期)純利益	(百万円)	12,745	15,765	28,798
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	12,398	37,064	46,653
純資産額	(百万円)	373,060	433,002	401,307
総資産額	(百万円)	525,572	617,046	587,254
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	36.57	45.04	82.62
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	36.53	44.91	82.52
自己資本比率	(%)	69.7	69.1	67.2
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	24,811	23,291	66,911
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	319	30,852	63,622
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	13,359	4,721	10,239
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	45,291	28,269	29,885

回次		第132期 第2四半期 連結会計期間	第133期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 2012年7月1日 至 2012年9月30日	自 2013年7月1日 至 2013年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	19.86	26.29

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成していますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 売上高には、消費税および地方消費税は含まれていません。
3. 第1四半期連結会計期間より、一部の在外子会社について「従業員給付」(国際会計基準審議会 国際会計基準第19号 2011年6月16日)を適用しています。当該会計方針の変更は遡及適用されるため、第132期第2四半期連結累計期間および第132期連結会計年度の四半期包括利益又は包括利益・純資産額・総資産額・自己資本比率は遡及適用後の数値を記載しています。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社の異動についても特に記載すべき事項はありません。

なお、第1四半期連結会計期間において、報告セグメントの区分を変更しています。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等) セグメント情報」の「 . 当第2四半期連結累計期間(自 2013年4月1日 至 2013年9月30日) 2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものです。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間(2013年4月1日～2013年9月30日)の経営環境は、前連結会計年度終盤より円高の局面が是正されましたが、米国経済こそ好調であったものの、欧州および中国経済の停滞継続、新興国経済の成長ペース鈍化により、全体的に需要に力強さを欠く状況が続きました。国内においても「アベノミクス」に対する期待感はあるものの、当社を取り巻く市場には顕著な効果はまだ見られていません。

このような状況においても、当社グループは持続的な成長を実現させるため、コア事業の世界戦略を加速するとともに、水・環境、エネルギー、光学・電子の各領域において次世代を担う事業の開発を積極的に推進しています。

当第2四半期連結累計期間の経営成績につきましては、売上高は前年同期比18,380百万円(10.2%)増の199,269百万円、営業利益は757百万円(3.2%)増の24,657百万円、経常利益は3,010百万円(13.8%)増の24,895百万円、四半期純利益は3,020百万円(23.7%)増の15,765百万円と増収増益になりました。

セグメント別の状況

当社は、2013年4月1日付の組織改定に伴い、第1四半期連結会計期間より報告セグメントを変更しており、第2四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後のセグメント区分に基づいています。

[ビニルアセテート]

当セグメントの売上高は90,051百万円(前年同期比19.9%増)、営業利益は24,527百万円(同0.5%増)となりました。

水溶性ポパールフィルムは旺盛な需要を背景に順調に拡大しましたが、光学用ポパールフィルムは液晶テレビの需要が伸び悩み、販売量は微増に留まりました。ポパール樹脂は欧米での伸長があるものの、アジアでは競合激化の影響を受けました。また、PVBフィルムは欧州の景気低迷の影響を強く受けました。

なお、洗剤用途の旺盛な需要拡大に対応するため、米国で水溶性ポパールフィルムの増設を決定し、工事を進めています。

EVOH樹脂<エパール>は、米国、アジアを中心に順調に拡大しました。

[イソブレン]

当セグメントの売上高は25,388百万円(前年同期比13.2%増)、営業利益は2,068百万円(同99.0%増)となりました。

イソブレン関連では、液状ゴムの需要は低調に推移しましたが、ファインケミカルおよび熱可塑性エラストマー<セプトン>は需要が回復しました。

耐熱性ポリアミド樹脂<ジェネスタ>は、LED反射板・コネクタ用途、自動車用途とともに好調でした。

[機能材料]

当セグメントの売上高は23,126百万円(前年同期比5.8%増)、営業利益は471百万円(同43.1%減)となりました。

メタクリル樹脂は、市況低迷および原燃料価格上昇の影響を受けました。

メディカルは、歯科材料の販売が堅調に推移しました。

人工皮革<クラリーノ>は、新プロセス品の拡販が遅れ、全体として低調に推移しました。

[繊維]

ビニロンは、需要の回復によりブレーキホース用途、アスベスト代替のFR C（繊維補強セメント）用途ともに堅調に推移しました。この結果、売上高は21,275百万円（前年同期比5.4%減）、営業利益は1,328百万円（同37.2%増）となりました。

[トレーディング]

一部の事業は景気低迷の影響を受け伸び悩みましたが、ポリエステルをはじめとする繊維関連事業は堅調に推移しました。この結果、売上高は53,009百万円（前年同期比2.3%減）、営業利益は1,719百万円（同6.2%増）となりました。

[その他]

活性炭事業は、浄水・エネルギー関連用途を主体に堅調に推移しました。活性炭以外の事業については総じて景気低迷の影響を受け、売上高は30,513百万円（前年同期比3.6%減）、営業利益は1,391百万円（同36.0%減）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況の分析

[営業活動によるキャッシュ・フロー]

税金等調整前四半期純利益24,495百万円、減価償却費16,430百万円等の収入に対して、仕入債務の減少10,492百万円、法人税等の支払9,261百万円等の支出で、営業活動によるキャッシュ・フローは23,291百万円の収入となりました。前年同期比では1,520百万円収入が減少しました。

[投資活動によるキャッシュ・フロー]

運用資産の純増加額4,948百万円、有形及び無形固定資産の取得24,900百万円等の支出で、投資活動によるキャッシュ・フローは30,852百万円の支出となりました。

[財務活動によるキャッシュ・フロー]

長期借入による10,054百万円等の収入に対し、配当金の支払6,279百万円等の支出で、財務活動によるキャッシュ・フローは4,721百万円の収入となりました。

以上の要因に加え、現金及び現金同等物に係る換算差額および新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加により、当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末より1,616百万円減少して28,269百万円となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。なお、当社は財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等(会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項)は次のとおりです。

<株式会社の支配に関する基本方針>

・当社の財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

昨今、日本の企業社会の構造は大きく変わりつつあります。たとえば、株式の持合いの解消が進み、会社は株主のものとする考え方や株主の声に配慮した経営が一層浸透する一方で、企業買収に対する株式市場、企業社会の理解も深まっています。こうした中で、企業買収の対象となる会社の経営陣と十分な協議や合意のプロセスを経ることなく、いわば敵対的に、突如として株式の大量買付けを強行する動きが顕在化しています。もとより、当社は、このような敵対的な株式の大量買付けであっても、その具体的な条件・方法等によっては、当社の企業価値・株主共同の利益の向上に資する場合もあると認識しております。そして、当社が資本市場に公開された株式会社である以上、当社の株式の買付提案に応じるべきか否かの判断は、最終的には、個々の株主の皆様によってなされるべきであると考えております。

しかしながら、上記のような一方的な株式の大量買付けの中には、株主の皆様に対して当該大量買付けに関する十分な情報が提供されず、株主の皆様が株式の売却を事実上強要するおそれがあるものや、株主の皆様が当該大量買付けの条件・方法等の検討を行ったり、当社取締役会が代替案の提案等を行ったりするための十分な時間が確保されないもの、その他真摯に合理的な経営を行う意思が認められないもの等の当社の企業価値・株主共同の利益を著しく損なう株式の大量買付けもないとはいえません。

当社といたしましては、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者は、当社の企業理念、および当社の企業価値の源泉をなす重要な経営資源を十分に理解した上で、当社の企業価値・株主共同の利益を中長期的に確保・向上させることを真摯に目指す者でなければならないと考えております。したがって、上記のような当社の企業価値・株主共同の利益を著しく損なうおそれのある株式の大量買付けを行う者は、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えます。

・基本方針の実現に資する取組み

当社は、企業価値を安定的かつ持続的に向上させていくことこそが株主共同の利益の向上のために最優先されるべき課題であると考え、以下のような事項をはじめ、当社の企業価値・株主共同の利益の向上のための様々な取組みを行っております。これらの取組みは、上記の当社の財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針の実現に資するものであると考えております。

1. 中期経営計画に沿った事業の強化・拡大

当社が目指すべき長期的な方向性を示す「長期企業ビジョン」の実現に向けて、2012年度から2014年度の3ヵ年計画として中期経営計画「GS-」に取り組み、技術革新、地域拡大、外部資源活用、グローバル経営基盤強化および環境対応を主要な経営戦略とし、次なる成長のステージへ飛躍するための諸施策に取り組んでおります。

2. コーポレート・ガバナンス体制の構築

当社は、経営の効率性と公正性を確保する効果的なコーポレート・ガバナンス体制の構築により、多様な利害関係者との適切な関係を維持し、社会に対する責任を果たすことが、長期的・持続的に企業価値・株主共同の利益を向上させ、上記に記載の基本方針の実現に資するものと考えます。当社は、この認識のもとに、以下の諸施策の実施を通じてコーポレート・ガバナンス体制を構築しています。

社外取締役による経営監督機能の強化および執行役員制度による経営の意思決定と業務執行責任の分離
社外監査役による監査機能の充実
社外有識者による社長の業務執行に対する助言を目的とした経営諮問会議の設置

3. 株主の皆様への利益配分についての基本方針

当社は、株主の皆様に対する利益配分を経営の重要課題と位置付け、当社の企業価値・株主共同の利益を確保・向上させるべく、株主の皆様に対する経営成果の還元と将来の成長力の確保に配慮しつつ、適正な利益配分を行うよう努めています。

当社は、上記1.に記載のとおり、中期経営計画「GS-」を実施しております。この期間における利益配分として、連結当期純利益に対する配当性向35%以上を目標としております。

・基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、2012年6月22日開催の当社第131回定時株主総会の承認を得て、当社の企業価値・株主共同の利益の確保・向上のための取組みとして、当社に対する濫用的な買収等を未然に防止するため、以下のとおり、当社の株式の大量買付け行為に関する対応策（以下「本プラン」といいます。）を導入しました。

本プランに定められた手続（以下「大量買付ルール」といいます。）では、当社株式の保有割合が20%以上となる買付け等（以下「大量買付行為」といい、かかる買付行為を行う者を以下「大量買付者」といいます。）を行う大量買付者には大量買付行為を行う前に、大量買付行為に対する皆様のご判断および当社取締役会の評価・検討等のために必要かつ十分な情報を提供していただくこととしております。当社取締役会は、当該情報に基づき所定の評価期間内に大量買付行為に対する意見を取りまとめ、株主の皆様にご公表するとともに、必要に応じて大量買付者との間で大量買付行為の条件・方法について協議し、株主の皆様に対する代替案の策定等を行います。

大量買付者が大量買付ルールに従わずに大量買付行為を行おうとする場合には、当社取締役会は、当該大量買付行為を当社の企業価値・株主共同の利益を著しく損なう敵対的買収行為とみなし、新株予約権の無償割当てによる対抗措置を発動することができるものとします。他方、大量買付者が大量買付ルールに従って大量買付行為を行う場合には、当該大量買付行為が当社の企業価値・株主共同の利益を著しく損なうものであると明白に認められる場合を除き、原則として当該大量買付行為に対する対抗措置は発動しません。

当社取締役会は、対抗措置の発動に先立ち、社外取締役および社外監査役で構成される特別委員会に対して対抗措置の発動の是非について諮問し、特別委員会の勧告を最大限尊重するものとします。また、当社取締役会は、特別委員会の勧告または当社取締役会の判断に基づき対抗措置の発動の是非につき株主の皆様のご意思を確認するための株主総会を招集する場合には、当該株主意思確認総会の決議に従うものとします。

なお、本プランの有効期間は、2012年6月22日開催の当社第131回定時株主総会の終了時から2015年に開催される当社第134回定時株主総会の終結時までとします。

本プランの詳細については、当社のウェブサイト (http://www.kuraray.co.jp/release/2012/pdf/120426_1_jp.pdf) をご参照ください。

．上記 ．の取組みについての取締役会の判断

当社は、企業価値を安定的かつ持続的に向上させていくことが株主共同の利益の向上のために最優先されるべき課題であると考え、当社の企業価値・株主共同の利益の向上を目的として、上記 ．の取組みを行っております。これらの取組みの実施を通じて、当社の企業価値・株主共同の利益を向上させ、それを当社の株式の価値に適正に反映させていくことにより、当社の企業価値・株主共同の利益を著しく損なうおそれのある当社株式の大量買付けは困難になるものと考えられます。したがって、上記 ．の取組みは上記 ．の基本方針に沿うものであり、株主の皆様の共同の利益を損なうものではなく、また、当社の役員の地位の維持を目的とするものではないと考えております。

．上記 ．の取組みについての取締役会の判断

上記 ．の取組みは、十分な情報の提供と十分な検討等の期間の確保の要請に応じない大量買付者、および当社の企業価値・株主共同の利益を著しく損なう大量買付行為を行いまは行おうとする大量買付者に対して、対抗措置を発動できることとしています。したがって、上記 ．の取組みは、これらの大量買付者による大量買付行為を防止するものであり、上記 ．の基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みであります。また、上記 ．の取組みは、当社の企業価値・株主共同の利益を確保・向上させることを目的として、大量買付者に対して、当該大量買付者が実施しようとする大量買付行為に関する必要な情報の事前の提供、およびその内容の評価・検討等に必要な期間の確保を求めめるために導入されたものです。さらに、上記 ．の取組みにおいては、株主意思の重視、合理的な客観的要件の設定、特別委員会の設置等の当社取締役会の恣意的な判断を排し、上記 ．の取組みの合理性を確保するための様々な制度および手続が確保されているものです。

したがって、上記 ．の取組みは上記 ．の基本方針に沿うものであり、株主の皆様の共同の利益を損なうものではなく、また当社の役員の地位の維持を目的とするものではないと考えております。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費の総額は8,386百万円です。なお、当第2四半期連結累計期間における研究開発活動の状況の変更の内容は、次のとおりです。

当社は、コア事業の基盤技術の強化と新事業開発のスピードアップを図るため、新事業開発本部を研究開発本部と新事業開発本部に分割し、4月1日より新体制にて運営を開始しました。新設した研究開発本部には、アクリル系フィルム事業の開発を加速するため、つくば研究センターにフィルム・シートプロジェクトチームを新設し、つくば研究センター無機材料・デバイス研究開発グループを同センター成形・加工研究所に統合しました。また、新事業開発本部に新たに電材事業推進部および成形部材事業推進部を置き、電材事業推進部にて液晶ポリマーフィルム〈ベクスター〉のさらなる拡大を、成形部材事業推進部にて集光型太陽光発電向けレンズやLED照明向け導光板等の早期事業化を目指します。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,000,000,000
計	1,000,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2013年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2013年11月5日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	382,863,603	382,863,603	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	382,863,603	382,863,603	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2013年7月1日～ 2013年9月30日	-	382,863,603	-	88,955	-	87,098

(6) 【大株主の状況】

2013年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	23,903	6.24
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	20,109	5.25
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号 日本生命証券管理部内	11,755	3.07
全国共済農業協同組合連合会	東京都千代田区平河町2丁目7番9号 JA共済ビル	11,002	2.87
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) SUB A/C AMERICAN CLIENTS (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	7,466	1.95
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2丁目1-1	5,969	1.56
太陽生命保険(株)	東京都港区海岸1丁目2番3号	5,782	1.51
NOMURA BANK(LUXEMBOURG) S.A. S/A NOMURA MULTI CURRENCY JAPAN STOCK LEADERS FUND (常任代理人 (株)三井住友銀行 証券ファイナンス営業部)	BATIMENT A-33 RUE DE GASPERICH, L-5826 HESPERANGE, LUXEMBOURG (東京都千代田区大手町1丁目2番3号)	5,705	1.49
THE BANK OF NEW YORK, TREATY JASDEC ACCOUNT (常任代理人 (株)三菱東京UFJ銀行)	AVENUE DES ARTS, 35 KUNSTLAAN, 1040 BRUSSELS, BELGIUM (東京都千代田区丸の内2丁目7-1)	5,560	1.45
NOMURA BANK(LUXEMBOURG) S.A. (常任代理人 (株)三井住友銀行 証券ファイナンス営業部)	BATIMENT A, 33, RUE DE GASPERICH, L-5826, LUXEMBOURG (東京都千代田区大手町1丁目2番3号)	4,850	1.27
合計		102,105	26.67

- (注) 1. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)の所有株式は、信託業務に係る株式です。
2. 当社は自己株式32,573,911株を所有しています。
3. 2013年6月21日付で野村証券株式会社およびその共同保有者であるグループ会社から大量保有報告書(変更報告書)の提出があり、2013年6月14日現在で以下の株式を保有している旨の報告を受けましたが、当社として第2四半期会計期間末時点における実質所有株式数の確認ができないので、上記「大株主の状況」は株主名簿に基づいて記載しています。なお、その大量保有報告書(変更報告書)の内容は次のとおりです。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
野村アセットマネジメント(株)	東京都中央区日本橋1丁目12番1号	25,497	6.66
NOMURA INTERNATIONAL PLC	1 Angel Lane, London EC4R 3AB, United Kingdom	1,156	0.30
野村証券(株)	東京都中央区日本橋1丁目9番1号	478	0.13
Nomura Asset Management Deutschland KAG mbH	Graefstrasse 109, 60487 Frankfurt am Main, F.R.Germany	429	0.11
合計		27,561	7.20

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2013年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 32,573,900	-	-
完全議決権株式(その他)(注)	普通株式 349,862,000	3,498,620	-
単元未満株式	普通株式 427,703	-	1単元(100株)未満の株式です。
発行済株式総数	382,863,603	-	-
総株主の議決権	-	3,498,620	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が500株含まれています。また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数5個が含まれています。

【自己株式等】

2013年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社クラレ	岡山県倉敷市 酒津1621番地	32,573,900	-	32,573,900	8.51
計	-	32,573,900	-	32,573,900	8.51

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しています。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2013年7月1日から2013年9月30日まで）および第2四半期連結累計期間（2013年4月1日から2013年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、あらた監査法人による四半期レビューを受けています。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2013年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2013年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	46,151	36,981
受取手形及び売掛金	83,843	86,408
有価証券	31,696	54,498
商品及び製品	57,823	58,902
仕掛品	10,332	12,337
原材料及び貯蔵品	15,138	15,685
繰延税金資産	5,732	6,080
その他	7,237	6,855
貸倒引当金	742	607
流動資産合計	257,212	277,143
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	41,938	43,045
機械装置及び運搬具(純額)	82,298	85,386
土地	20,425	21,201
建設仮勘定	32,326	42,908
その他(純額)	4,285	4,387
有形固定資産合計	181,274	196,928
無形固定資産		
のれん	24,659	26,126
その他	26,664	29,411
無形固定資産合計	51,324	55,537
投資その他の資産		
投資有価証券	83,543	74,204
長期貸付金	679	375
繰延税金資産	2,744	2,842
前払年金費用	5,437	5,297
その他	5,114	4,766
貸倒引当金	76	48
投資その他の資産合計	97,442	87,437
固定資産合計	330,041	339,903
資産合計	587,254	617,046

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2013年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2013年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	37,048	28,786
短期借入金	30,918	36,779
未払法人税等	7,687	7,370
賞与引当金	6,590	6,660
その他の引当金	21	23
その他	29,182	22,415
流動負債合計	111,449	102,035
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	28,171	32,280
繰延税金負債	14,872	16,738
退職給付引当金	6,665	7,575
役員退職慰労引当金	178	128
環境対策引当金	1,051	1,051
資産除去債務	2,336	2,405
その他	11,221	11,829
固定負債合計	74,497	82,009
負債合計	185,947	184,044
純資産の部		
株主資本		
資本金	88,955	88,955
資本剰余金	87,147	87,147
利益剰余金	263,262	272,293
自己株式	40,169	38,452
株主資本合計	399,195	409,944
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,076	6,539
繰延ヘッジ損益	17	20
為替換算調整勘定	9,877	10,960
年金負債調整額	622	798
その他の包括利益累計額合計	4,440	16,680
新株予約権	1,221	1,017
少数株主持分	5,330	5,359
純資産合計	401,307	433,002
負債純資産合計	587,254	617,046

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2012年4月1日 至2012年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2013年4月1日 至2013年9月30日)
売上高	180,888	199,269
売上原価	122,560	136,210
売上総利益	58,328	63,058
販売費及び一般管理費		
販売費	9,255	9,904
一般管理費	25,172	28,496
販売費及び一般管理費合計	¹ 34,428	¹ 38,400
営業利益	23,899	24,657
営業外収益		
受取利息	190	337
受取配当金	1,021	1,197
持分法による投資利益	0	0
その他	451	662
営業外収益合計	1,664	2,197
営業外費用		
支払利息	494	505
その他	3,184	1,454
営業外費用合計	3,679	1,959
経常利益	21,884	24,895
特別損失		
固定資産廃棄損	120	280
減損損失	-	118
買収関連費用	748	-
投資有価証券評価損	562	-
環境対策引当金繰入額	111	-
特別損失合計	1,544	399
税金等調整前四半期純利益	20,340	24,495
法人税、住民税及び事業税	6,766	8,894
法人税等調整額	543	342
法人税等合計	7,309	8,552
少数株主損益調整前四半期純利益	13,030	15,942
少数株主利益	285	177
四半期純利益	12,745	15,765

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2012年4月1日 至2012年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2013年4月1日 至2013年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	13,030	15,942
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	174	464
繰延ヘッジ損益	10	3
為替換算調整勘定	394	20,837
年金負債調整額	73	176
その他の包括利益合計	632	21,121
四半期包括利益	12,398	37,064
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	12,113	36,886
少数株主に係る四半期包括利益	284	177

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2012年4月1日 至2012年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2013年4月1日 至2013年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	20,340	24,495
減価償却費	13,829	16,430
減損損失	-	118
環境対策引当金繰入額	111	-
固定資産廃棄損	120	280
買収関連費用	748	-
投資有価証券評価損益(は益)	562	-
売上債権の増減額(は増加)	1,489	670
たな卸資産の増減額(は増加)	2,183	243
仕入債務の増減額(は減少)	1,950	10,492
その他	249	221
小計	33,318	31,525
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	9,192	9,261
その他	685	1,027
営業活動によるキャッシュ・フロー	24,811	23,291
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額(は増加)	606	7,754
有価証券の純増減額(は増加)	49,989	22,993
投資有価証券の売却及び償還による収入	1,310	10,290
有形及び無形固定資産の取得による支出	19,390	24,900
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	31,051	-
その他	1,784	1,003
投資活動によるキャッシュ・フロー	319	30,852
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	4,642	30
長期借入れによる収入	230	10,054
長期借入金の返済による支出	2,922	55
配当金の支払額	5,922	6,279
その他	103	1,031
財務活動によるキャッシュ・フロー	13,359	4,721
現金及び現金同等物に係る換算差額	652	1,197
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	10,480	1,642
現金及び現金同等物の期首残高	34,811	29,885
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	26
現金及び現金同等物の四半期末残高	¹ 45,291	¹ 28,269

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)	
(連結の範囲の重要な変更)	
第1四半期連結会計期間より、重要性が増したため、クラレアクア株式会社および可楽麗管理(上海)有限公司を連結の範囲に含めています。	
また、当社は、2013年5月1日に当社の連結子会社であるクラレビジネスサービス株式会社を吸収合併したため、同日をもって同社を連結の範囲から除外しています。	

(会計方針の変更等)

当第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)	
(会計基準等の改正等に伴う会計方針の変更)	
第1四半期連結会計期間より一部の在外子会社について「従業員給付」(国際会計基準審議会 国際会計基準第19号 2011年6月16日)を適用しています。これにより、数理計算上の差異、過去勤務費用および純利息費用等の認識方法ならびに表示方法の変更等を行っています。	
当該会計方針の変更は遡及適用され、前第2四半期連結累計期間および前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表および連結財務諸表となっています。なお、前第2四半期連結累計期間および前連結会計年度における当該遡及適用による影響は軽微です。	

(四半期連結貸借対照表関係)

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対して、次のとおり債務保証を行っています。

前連結会計年度 (2013年3月31日)		当第2四半期連結会計期間 (2013年9月30日)	
社会福祉法人石井記念愛染園 (連帯保証)	1,545百万円	社会福祉法人石井記念愛染園 (連帯保証)	1,479百万円
株式会社クレハ・バッテリー・ マテリアルズ・ジャパン	288百万円	株式会社クレハ・バッテリー・ マテリアルズ・ジャパン	279百万円
合計	1,833百万円	合計	1,759百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額は次のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)
運賃及び保管料	6,162百万円	6,933百万円
研究開発費	7,605百万円	8,061百万円
給料等	6,046百万円	7,035百万円
賞与引当金繰入額	1,815百万円	1,999百万円
退職給付費用	671百万円	597百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)
現金及び預金勘定	48,336百万円	36,981百万円
預金期間が3ヶ月を超える定期預金	3,044百万円	17,211百万円
取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する 短期投資(有価証券)	- 百万円	8,500百万円
現金及び現金同等物	45,291百万円	28,269百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2012年6月22日 定時株主総会	普通株式	5,922	17.00	2012年3月31日	2012年6月25日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2012年11月1日 取締役会	普通株式	6,273	18.00	2012年9月30日	2012年12月3日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2013年6月21日 定時株主総会	普通株式	6,279	18.00	2013年3月31日	2013年6月24日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2013年10月29日 取締役会	普通株式	6,305	18.00	2013年9月30日	2013年12月2日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	ビニルア セテート	イソプ レン	機能材料	繊維	トレー ディング	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	60,544	14,318	12,872	17,168	52,479	157,383	23,504	180,888	-	180,888
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	14,569	8,114	8,992	5,328	1,765	38,770	8,145	46,916	46,916	-
計	75,113	22,433	21,865	22,496	54,244	196,153	31,650	227,804	46,916	180,888
セグメント利益	24,410	1,039	828	968	1,619	28,866	2,175	31,041	7,142	23,899

- (注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、活性炭事業、アクア事業、エンジニアリング事業等を含んでいます。
2. セグメント利益の調整額 7,142百万円には、セグメント間取引消去 205百万円および各報告セグメントに配分していない全社費用 6,936百万円を含んでいます。全社費用の主なものは、提出会社の基礎研究費、本社管理部門費です。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しています。

当第2四半期連結累計期間(自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	ビニルア セテート	イソプ レン	機能材料	繊維	トレー ディング	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	77,610	15,046	15,404	15,988	51,739	175,789	23,479	199,269	-	199,269
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	12,440	10,341	7,721	5,287	1,270	37,062	7,033	44,095	44,095	-
計	90,051	25,388	23,126	21,275	53,009	212,851	30,513	243,364	44,095	199,269
セグメント利益	24,527	2,068	471	1,328	1,719	30,115	1,391	31,507	6,850	24,657

- (注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、活性炭事業、アクア事業、エンジニアリング事業等を含んでいます。
2. セグメント利益の調整額 6,850百万円には、セグメント間取引消去 38百万円および各報告セグメントに配分していない全社費用 6,812百万円を含んでいます。全社費用の主なものは、提出会社の基礎研究費、本社管理部門費です。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しています。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間に組織改定を実施したことにより、報告セグメントの区分を従来の「樹脂」「化学品」「繊維」「トレーディング」から「ビニルアセテート」「イソブレン」「機能材料」「繊維」「トレーディング」に変更しています。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しています。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額および算定上の基礎ならびに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額および算定上の基礎は、以下のとおりです。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	36.57円	45.04円
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	12,745	15,765
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	12,745	15,765
普通株式の期中平均株式数(千株)	348,490	350,029
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	36.53円	44.91円
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(千株)	412	1,052
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

2013年10月29日開催の取締役会において、第133期中間配当に関し、次のとおり決議しました。

(イ) 中間配当による配当金の総額・・・・・・・・・・6,305百万円

(ロ) 1株当たりの金額・・・・・・・・・・18円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日・・・・・・・・2013年12月2日

(注) 2013年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主に対し、支払を行います。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2013年11月5日

株式会社クラレ
取締役会御中

あらた監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 小林 昭 夫

指定社員
業務執行社員 公認会計士 塩 谷 岳 志

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社クラレの2013年4月1日から2014年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2013年7月1日から2013年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2013年4月1日から2013年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社クラレ及び連結子会社の2013年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。